

0318教育メディア学会

小中学生のインターネット視聴に 対する親の介入について

NTTドコモ モバイル社会研究所 水野一成



モバイル社会研究所
Mobile Society Research Institute

目的

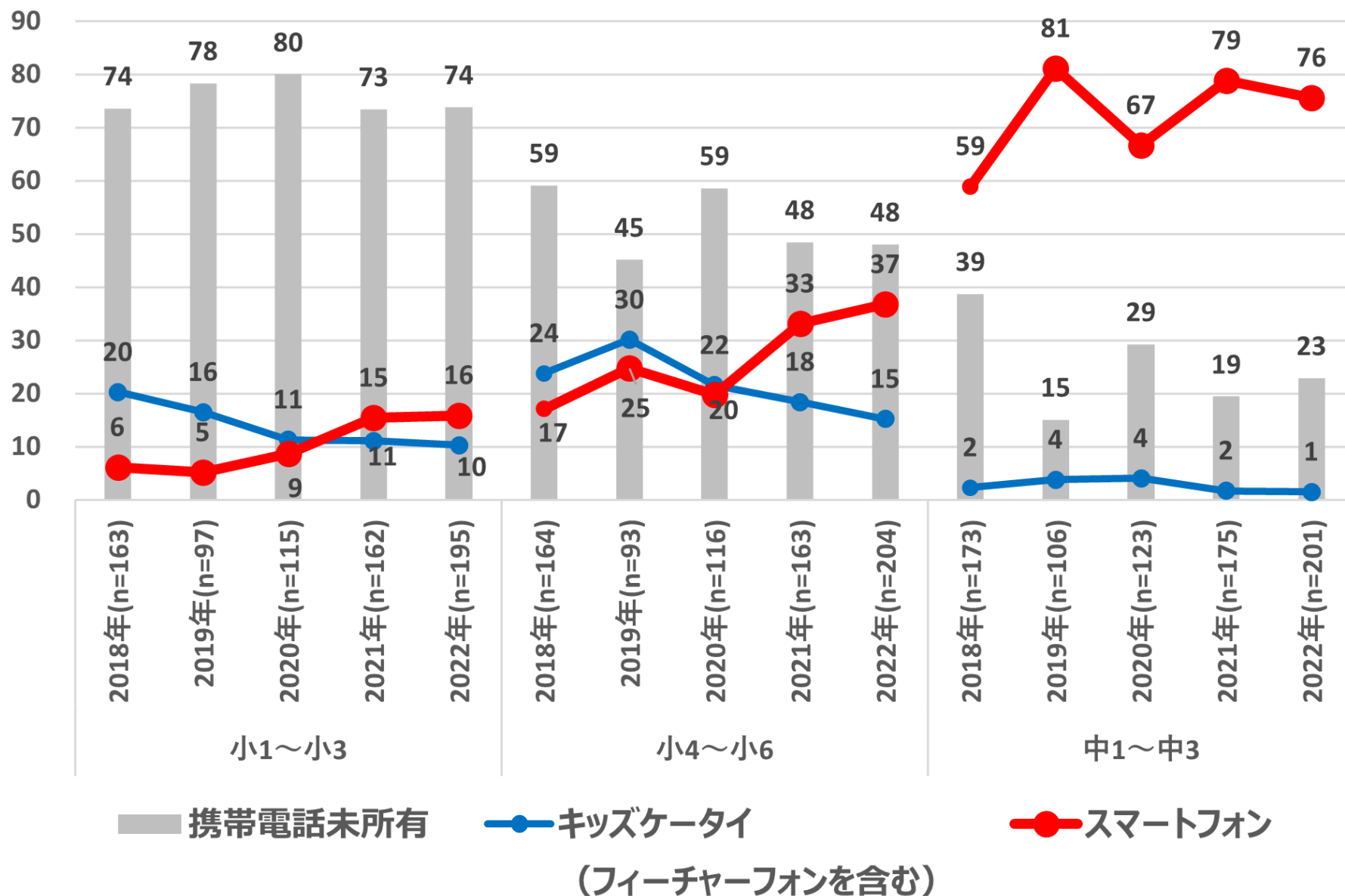
子がインターネットを利用する親はどのような関りをしているのかを明らかにする

分析の流れ

- ①子がインターネットのサイトや動画を視聴する際に、親はどのように関わっているかを9問で調査
- ②①の結果を因子分析
- ③②で抽出された因子を基にクラスタ分析を実施
- ④③で作成された各クラスタの特性を判明するために、数量化理論第Ⅱ類を用いて分析

調査概要

調査時期	2022.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東 小中学生の親と子
割付	性別・年齢・都道府県・都市規模
サンプル数	600



学習以外の1日平均インターネット利用時間

■ 使用していない ■ 30分より少ない ■ 毎日30分くらい ■ 毎日1時間くらい ■ 毎日2時間くらい
■ 毎日3時間くらい ■ 毎日4時間くらい ■ 毎日5時間くらい ■ 毎日6時間くらい ■ 毎日7時間以上

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

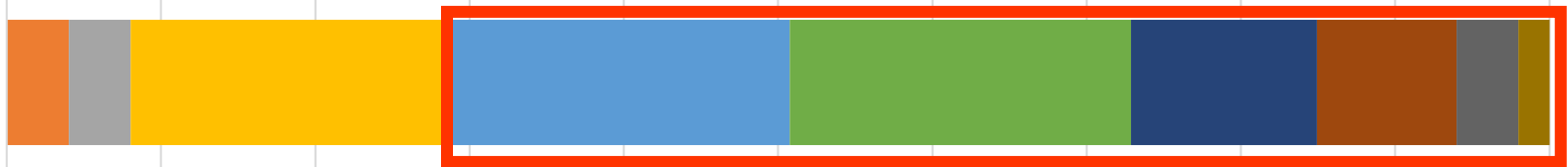
小学低学年



小学高学年

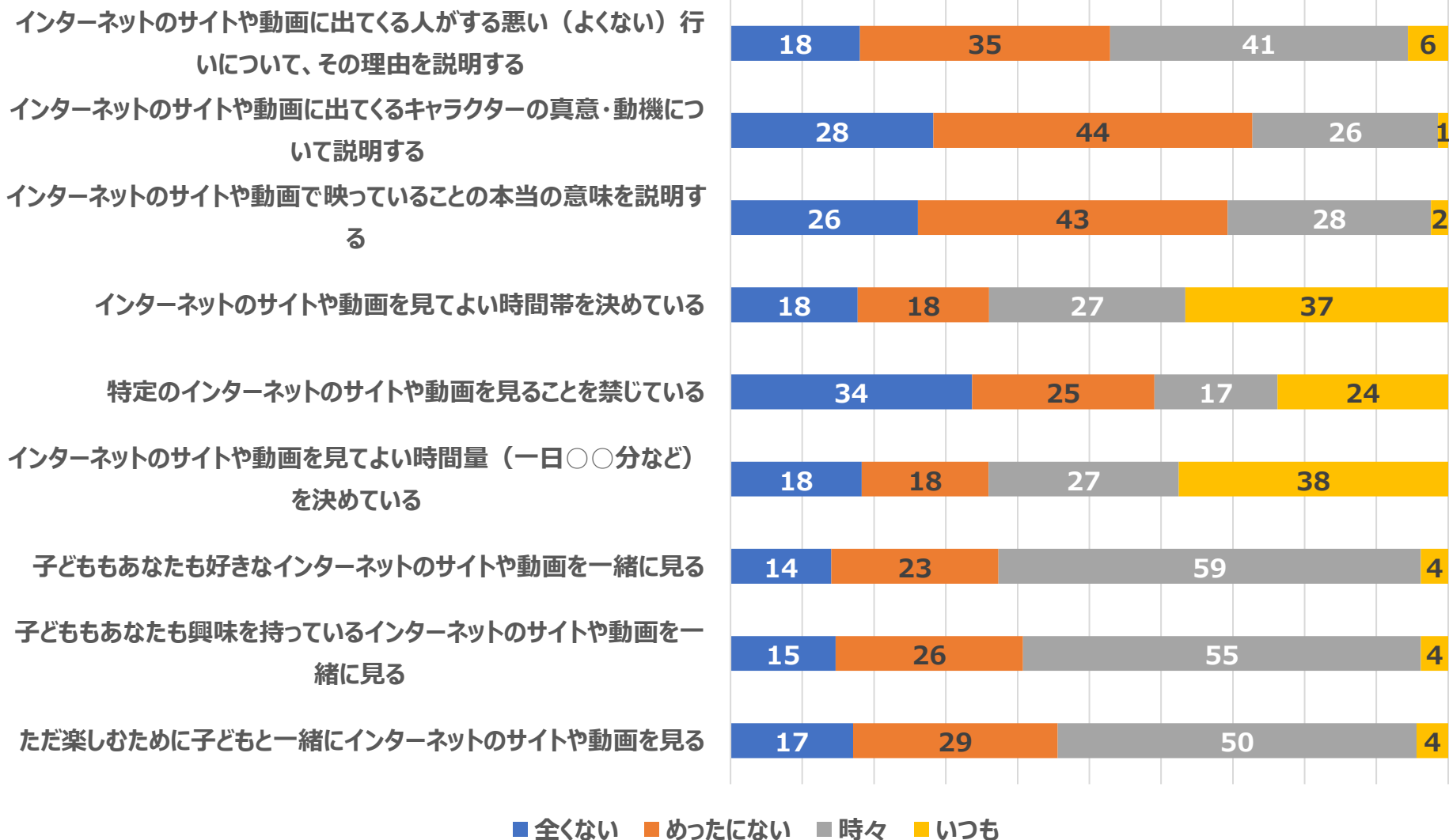


中学生



2時間以上のインターネット利用

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



3因子「共視聴」「指示」「制限」を確認

	共視聴	指示	制限
8子どももあなたも興味を持っているサイトや動画を一緒に見る	0.91	0.16	0.06
7子どももあなたも好きなサイトや動画を一緒に見る	0.89	0.18	0.07
9ただ楽しむために子どもと一緒にサイトや動画を見る	0.78	0.10	0.02
3サイトや動画で映っていることの本当の意味を説明する	0.14	0.85	0.10
2サイトや動画に出てくるキャラクターの真意・動機について説明する	0.13	0.84	0.17
1サイトや動画に出てくる人がする悪い行いについて、その理由を説明する	0.16	0.71	0.23
6サイトや動画を見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	0.00	0.07	0.84
4サイトや動画を見てよい時間帯を決めている	0.03	0.13	0.74
5特定のサイトや動画を見ることを禁じている	0.08	0.23	0.46

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

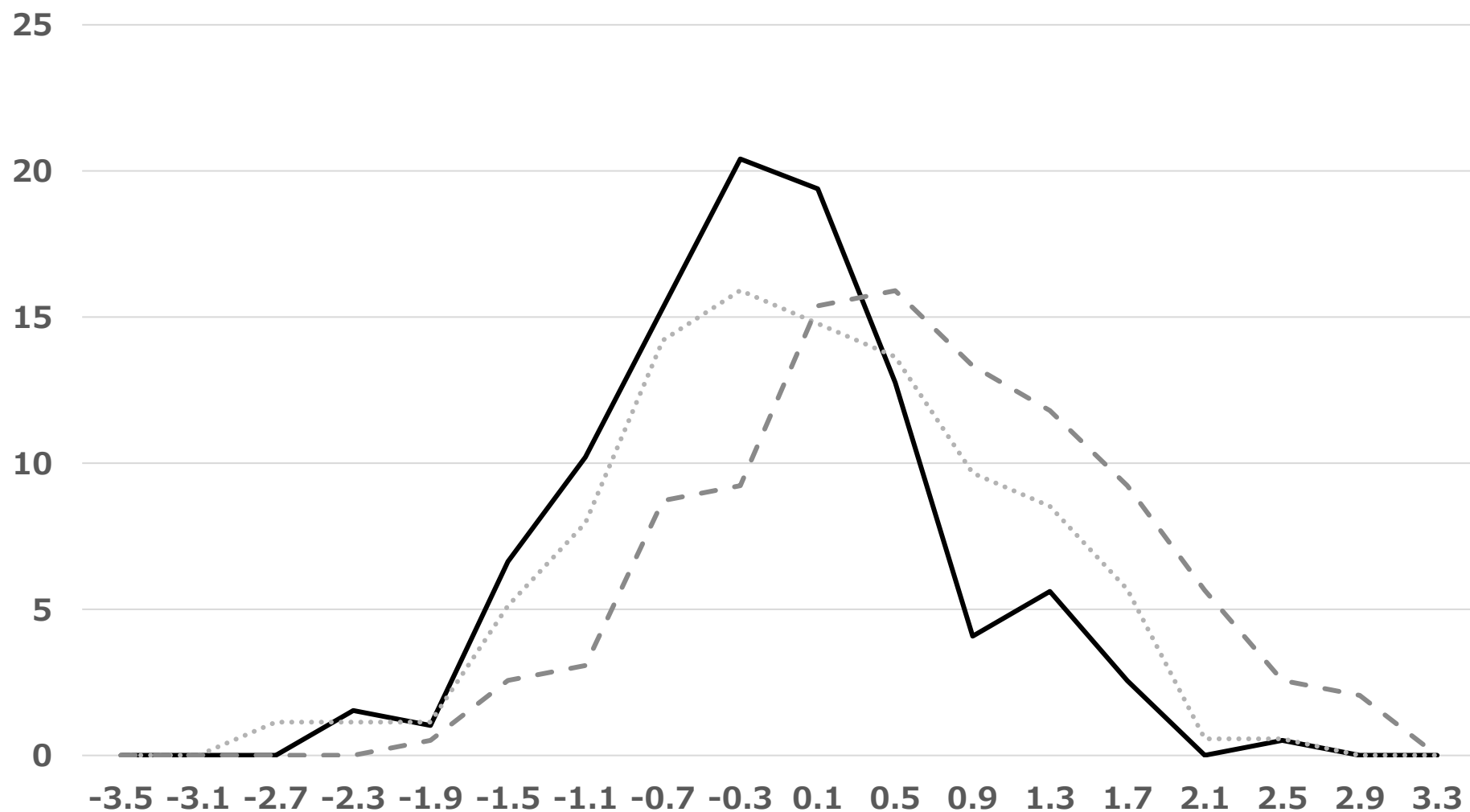
3 クラスタ「共視聴/指示」「共視聴/制限」「低介入」に分ける

目的変数		共視聴/指示	共視聴/制限	低介入
因子	共視聴	0.53	0.62	-1.08
	指示	0.77	-0.80	-0.07
	制限	-0.21	0.23	0.01
構成比(%)		35	30	35

判別グラフ及び各群の平均より1軸は「高介入」と「低介入」を分ける

1軸寄与率：69.8% 判別的中率76.0% 相関比 $\eta^2=0.11$

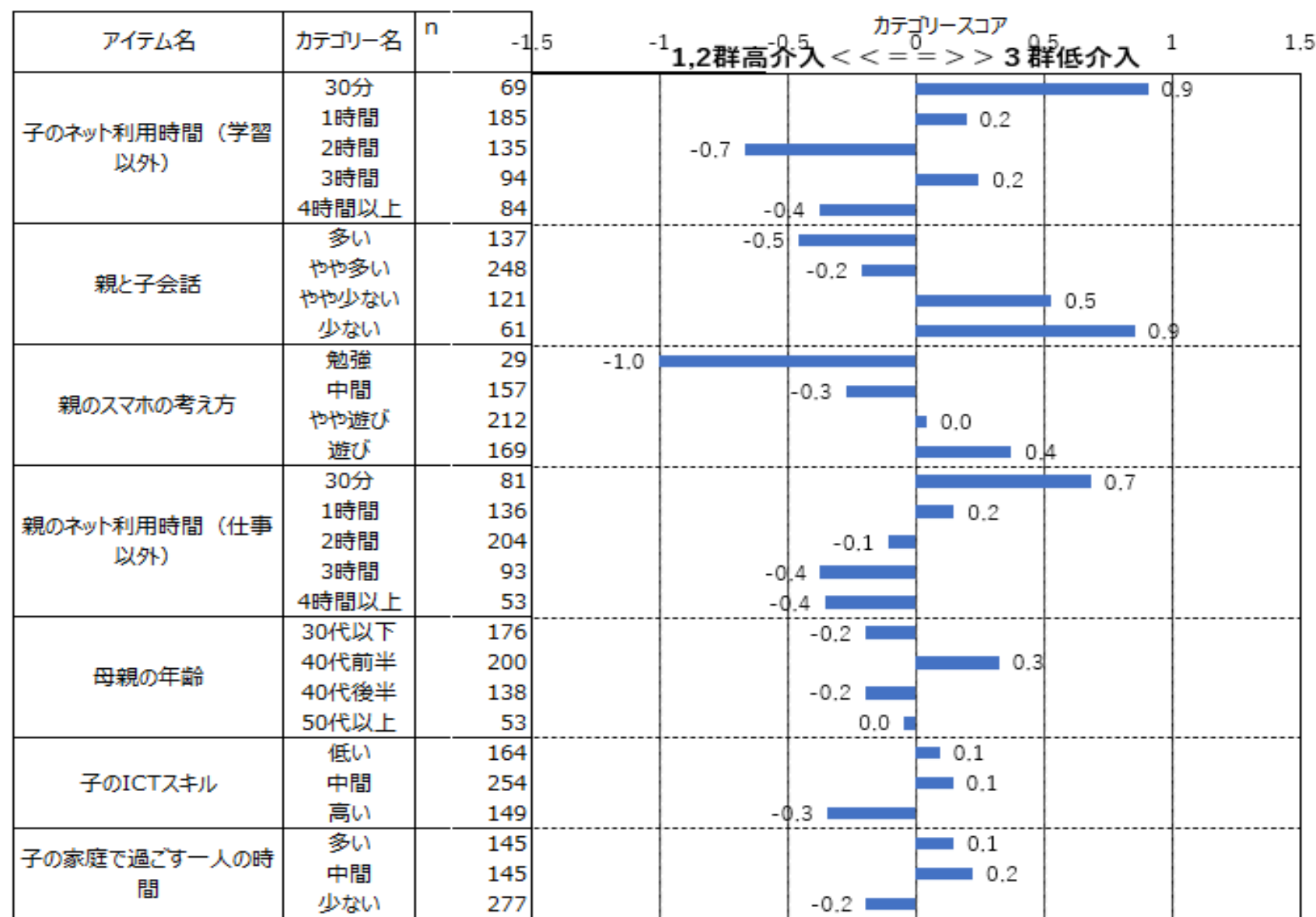
— 1群 2群 - - 3群



「子のネット利用時間」「親と子の会話」「親のスマホの考え方」が上位

アイテム名	偏相関係数		レンジ	
子のネット利用時間（学習以外）	0.17	1位	1.57	1位
親と子の会話	0.16	2位	1.32	3位
親のスマホの考え方	0.12	3位	1.38	2位
親のネット利用時間（仕事以外）	0.11	4位	1.06	4位
母親の年齢	0.09	5位	0.52	5位
子のICTスキル	0.06	6位	0.49	6位
子の家庭で過ごす一人の時間	0.06	7位	0.42	7位
子のスマホ所有	0.05	8位	0.37	8位
子の性別	0.04	9位	0.25	9位
子の学校の成績	0.03	10位	0.22	10位
親のパソコンの考え方	0.03	11位	0.19	11位
子の学年	0.01	12位	0.13	12位

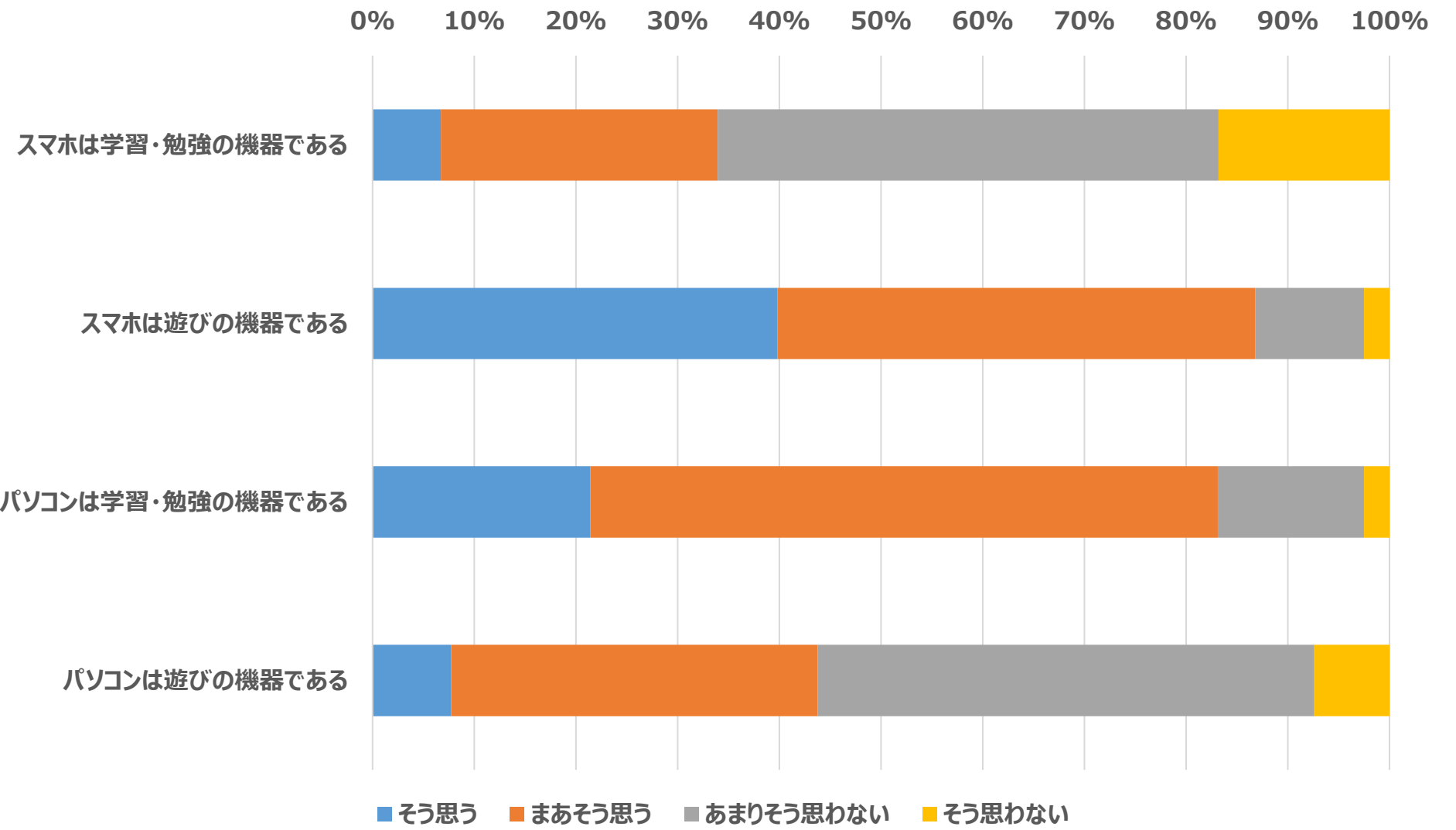
「子のネット利用時間が長い」「親と子の会話が長い」「親のスマホの考え方が勉強傾向」
「親のネット利用時間が長い」と高加入傾向



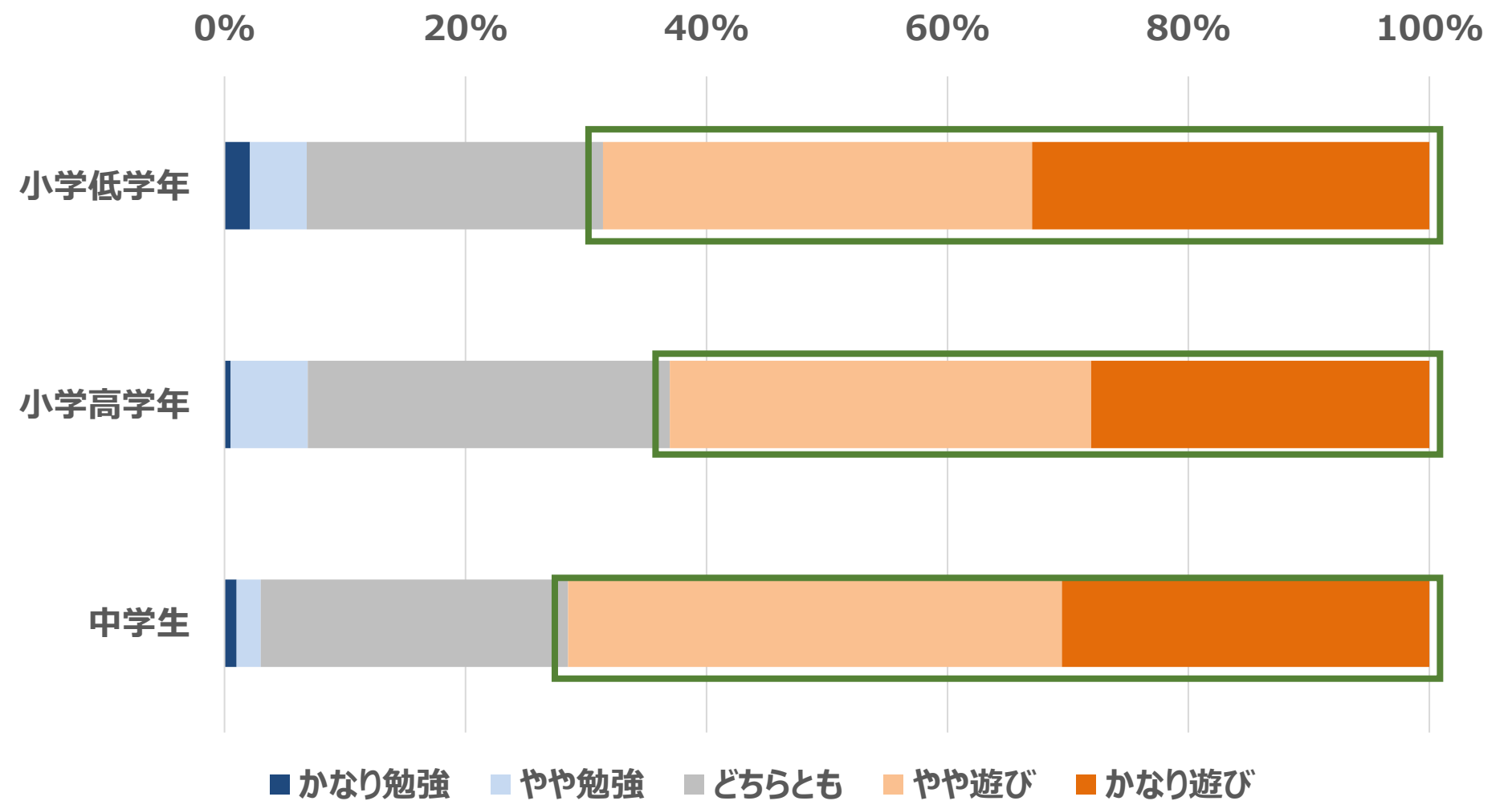
「子の性別」「子の学校の成績」「親のパソコンへの考え方」「子の学年」との関係は低い

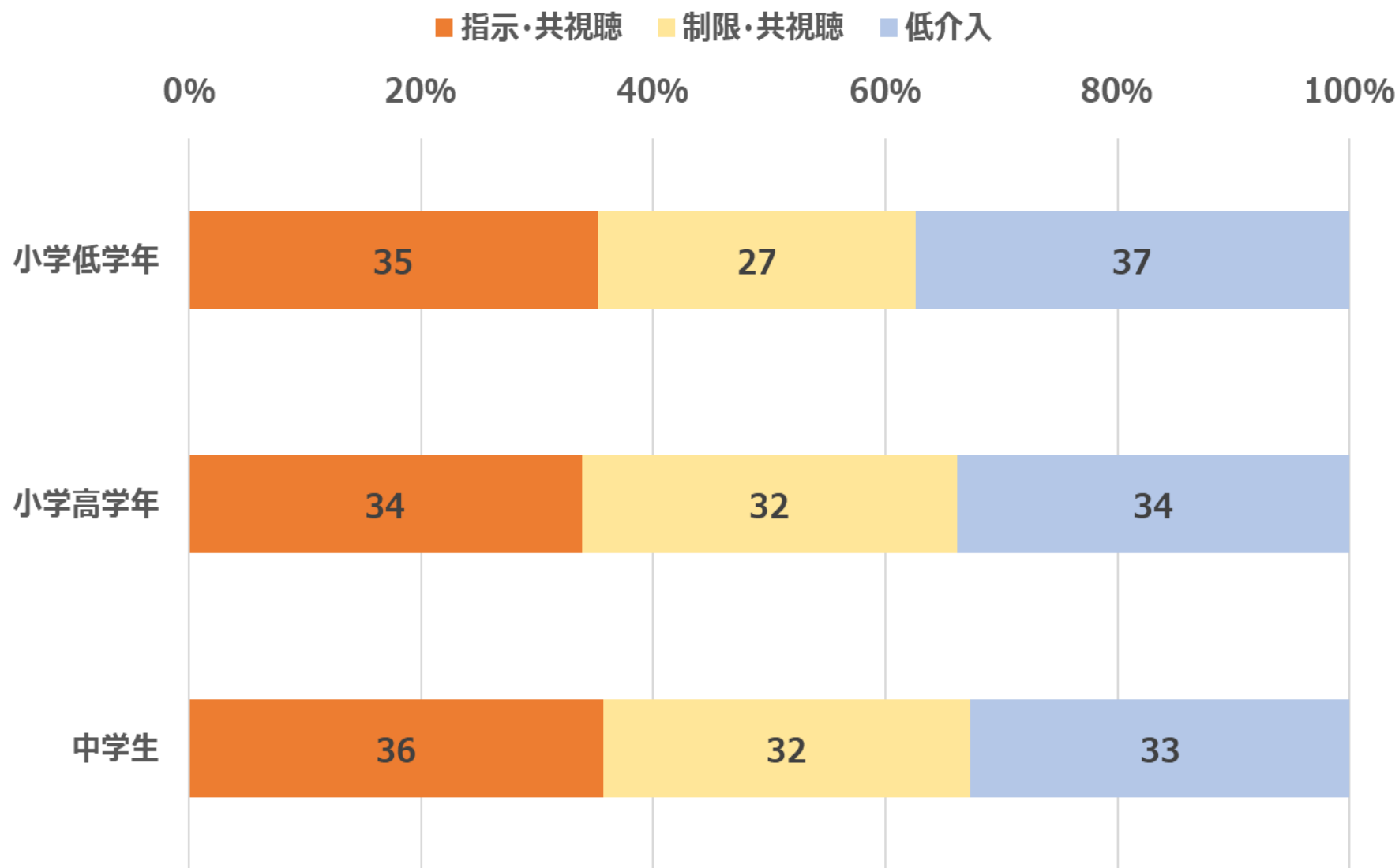
子のスマホ所有	所有	275			-0.2				
	未所有	292				0.2			
子の性別	男性	290				0.1			
	女性	277			-0.1				
子の学校の成績	上	147			-0.2				
	中	271				0.1			
	下	103				0.0			
	答えたくない	46				0.0			
親のパソコンの考え方	勉強	83			0.0				
	やや勉強	230			-0.1				
	中間	204				0.1			
	遊び	50				0.1			
子の学年	小学低学年	178			-0.1				
	小学高学年	197			0.0				
	中学生	192				0.1			

スマホは「遊び」、パソコンは「勉強」の機器と考える親の割合が高い



スマホは勉強、遊び両面同じくらいあると考える親は約3割





結果

インターネット視聴への親の介入【高介入群の特性】

- ・子のインターネット利用時間が長い
- ・親と子の会話が深い
- ・親のスマホの考え方が勉強傾向
- ・親のネット利用時間が長い

日頃の親子関係
親のネット利用・志向が反映

関係性が低い→子の属性

今後の研究

- ・子のICTリテラシー（情報モラル）への影響
- ・学習面への影響

- 社会調査を通し、ドコモユーザに特化せずライフスタイルを軸に調査・分析。
 - 経年モバイル動向調査（2010～）、シニア（2015～）、子ども（2018～）、防災（2017～）、ニューノーマル（2020～）、スマホ利用者行動（2021～）etc... 成果を、レポート・学会等で広く社会に発信、還元

モバイル社会研究所 🔍

<https://www.moba-ken.jp/>



▶ お問い合わせ [サイトご利用にあたって](#)

Google

検索

通信業界の直接の利害を越え、自由独立の立場から、モバイルICTがもたらす光と影の両面を解明し、その成果を社会に還元することを目的とする、NTTドコモの社会科学系の研究所です。

モバイル社会研究所
とは

モバイル社会白書
Web版

レポート

学会報告・
執筆実績

刊行物・活動

書籍とweb版を1年ごとに発
刊しています。



HP、
amazon等か
ら無料でDLで
きます！

レポートを多数執筆・発出してい
ます。
テレビ、新聞、ネットニュース等、
日々さまざまなメディアに引用さ
れています。

【スマホ比率・販売数】
スマートフォン比率92.8%に：2010年は約4% ここ10年でいっ
きに普及（2021年4月14日）
（2021年4月14日）



様々学会に投稿、発表、社外
専門家とのディスカッションをと
おし、モバイルICTの社会課題
と向き合っています。



日本社会心理
学会



日本行動計量
学会

日本老年社会学会、日
本災害情報学会、日本自
然災害学会、...

データで見る防災ガイド等、
活用できるツールを作成して
います。

